

1. わたしはオープンソースとその文化が好きだ。普段からLinuxを使っているし、そのユーザランドのGNUのツールにもお世話になっている。オープンソースによって生まれるプロダクトそのものも好きだし、プロダクトから感じられるハッカー精神には惹かれるものがある。
しかしながら、わたしは某企業のアルバイトとして、コードを書くことの対価にお金を受け取っている。しかもそれは、プロプライエタリなコードだ。
Ruby on Railsを使っているからオープンソースの恩恵を受けていることになる。だが、ただただ使うだけで、Railsに対しての貢献は、ゼロだ。

2. こんな人物が「オープンソースが好き」と公言しているのも、変な話かもしれない。人によっては、プロプラなコードを書いているというだけで悪の手先だと思うかもしれない。
自分でもそう思うことがある。
しかし、だ。毎日おいしいごはんを食べるためには、お金が必要だ。自分の力で生きていくためには、お金を稼ぎ出さないといけないのだ。
労働条件を度外視すれば、プロプラなコードを書かなくても、いくらでも働き口はあるだろう。だが、わたしが本当にやりがいを感じて、しかも割のいい仕事といえば、コードを書くことしかないのである。
この味を知ってしまうと、もう戻れない。時間や勤務場所に縛られて、やりたくない牛乳配りをやるだなんて、ごめんだ。

3. だから、プロプラなコードを書いている人を、頭ごなしに悪だと決めてかかれてしまうと、少し悲しくなる。
わたしはいつか、オープンソースに寄与しながら対価を得られるような、そんな生活を送ることを夢見ている。
今でも、githubでコードを公開することで、オープンソース文化に微力ながら貢献しているつもりだ。
今はそう、雌伏の時である。